

～中学校における取組～

1 【活動の趣旨】

本校では、豊富な知識や経験を持つ地域の人々の支援をうけて生徒の学習を深めている。

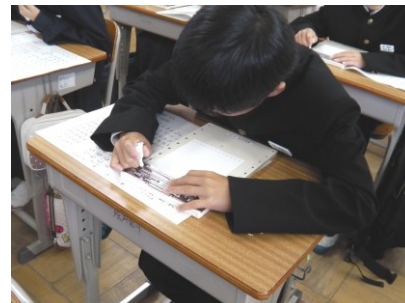
2 【特徴的な活動内容】

(1) 福祉体験「点字を知ろう・手話で話そう」

時期 11月

対象 1年生

内容 市内で活動されているサークルの方々を講師に迎えて点字や手話の基本を学び、バリアフリー社会への意識を高めた。



(2) 毛筆に親しもう

時期 10月

対象 1年生

内容 書道家を講師に迎えて毛筆の筆使い・作品づくりについて学んだ。



(3) 地域の活動に参加しよう

時期 11月および12月

対象 吹奏楽部

内容 地域の「ふれあい広場」や文化祭で演奏して地域の人々と触れ合った。



(4) 「命の大切さ」講演会

時期 2月

対象 3年生

内容 助産師を講師に迎え、生命の誕生について話を伺い、自他の生命を大切にすることの大切さを育てた。

3 【実施に当たっての工夫】

事前の打ち合わせ・・事業のねらいやどんな力を生徒に付けたいかについて、講師との打ち合わせを大切にしている。

4 【事業の成果】

- ・福祉体験・・初めて学ぶ生徒も多かったが、自分の名前やあいさつなどを手話で伝えられるようになり、生徒間で楽しく交流していた。また、福祉学習のまとめとして、講師を招いて話を聞いたことも、これからの日常生活の中で役立つものとなった。
- ・毛筆に親しもう・・専門家から指導を受けることで、回数を重ねるごとに筆運びの良さや習字の上達が見られた。
- ・地域の活動に参加しよう・・地域のふれあい祭りや文化祭に参加することで、地域の人々と触れ合い、地域の一員である自覚が生まれた。
- ・「命の大切さ」講演会・・中学校3年間の性教育のまとめとして、助産師さんの講話から命の大切さ、自他の性を大切にすることの大切さ、相手を尊重する気持ちを育てられた。

5 【事業実施上の課題】

今回指導に来ていただいたのは毎年ご指導いただいている講師の方で、打ち合わせ等スムーズに行うことができた。反面、講師の方が固定化している傾向もある。今後、事前打ち合わせを充実させながら多様な内容、広い範囲より人材を確保する努力が必要であると考える。

1 【活動の趣旨】

学校・地域・家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の自然や文化や産業に触れることで、その良さを知り、伝えられる子どもたちの育成とその仕組みづくりを目指す。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 「1、2年書道教室」

10月に校区内の市民センターの自主教室で活動されている講師の先生およびサークル会員の方々、草津市ゆうゆうびとバンクの講師の方とともに書写の授業を実施し、交流を図った。

(2) 「1年水墨画教室」

11月に校区内で活躍されている水墨画の先生を講師に招いて、水墨画について学んだ。日本の文化に対する愛情と理解を深める機会とした。

(3) 「地域行事への参加・ボランティア活動」

吹奏楽部の各種地域行事（ふれあい祭り等）への参加、生徒会執行部のボランティア参加。12月には福祉委員会を中心に行う「ハンド・イン・ハンド」という募金活動（草津駅前）や、美化委員と、地域の方々が参加する「クリーン大作戦」（中学校から駅までの通学路を中心にゴミ拾い）を行った。

(4) 「福祉体験」

1年生では11月に55か所の施設で福祉体験学習を実施した。高齢者や障がい者の方々と接することにより、共生について考えるきっかけとし、地域のさまざまな施設で体験活動をしながら、地域社会とのより良い関係を築き、自分の生き方を見つめなおすことを目的としている。事前に地域の施設の方と車いす体験をし、認知症サポーター養成講座を行った。

3 【実施に当たっての工夫】

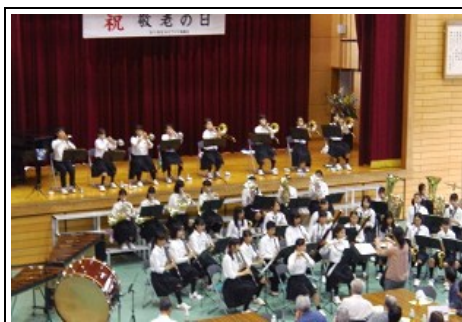
それぞれの講師の方と学校の担当との連絡を密に、学習がうまく進むように一緒に計画を立てた。また福祉体験では教師、生徒が事前の打ち合わせに行く時間を確保し、生徒が現地へ行く途中の安全も確保できるよう努力した。

4 【事業の成果】

書道教室、水墨画教室の講師の方の熱心なご指導により、生徒の作品は素晴らしいものになった。書道教室、水墨画教室についてはここ数年定着してきたので講師の方も担当教師も動きがわかりやすく、生徒も講師の方に進んでアドバイスを受けようとする姿勢が出てきた。吹奏楽部の地域での多くの活動は草津中学校全体に対し、良い評価をいただいている。

5 【事業実施上の課題】

草津中学校ではそれぞれの活動内容が定着しつつある。地域の方とのふれあいの中で豊かな生徒に育っているように思う。それらの活動内容を常に反省し、生徒にとってよりよくなるように見直していかなければならない。また今後新しい活動の取り組みも考えていかなければならない。



1 【活動の趣旨】

老上中学校地域協働合校では、生徒がすこやかに、心豊かに、「生きる力」をしっかりと身につけて成長していくために、生徒と大人が積極的に交流し、ともに学び、ともに考え、ともに行動し、目標達成に努力することが何より大切であると考えている。

その考えのもと《あいさつ運動と奉仕活動》をメインに掲げ、学校・地域が一体となり、世代を超えた地域活動の推進に力を入れている。

そして保護者の方々の協力を得て、自らが生活する地域で清掃美化活動を行うことを通して「環境問題」や「ボランティア」についての学習を深め、明るく、生き生きとした地域社会を築くとともに、次代に生きる生徒の「生きる力」の育成を目指している。

2 【特徴的な活動内容】

環境美化活動を通して、環境についての関心を深め、自然や環境を大切にする心を育てることと、大人も交えたグループでの活動によって公衆道徳を身につけ、奉仕活動の大切さを感じることを目的としてこの事業を実施した。当日は秋晴れのもと、本校学区内の13分団で、各地域で定められたコースを生徒と保護者、地域の方々が一緒に清掃活動を行った。

また、清掃活動中、生徒は3、4名のグループ毎にタブレット端末を利用し、記録写真と感想・メッセージの入力をして、環境美化・地域保全を啓発するポスターをつくった。青少年育成市民会議の方々も参加され、生徒との交流を深めていただいた。



3 【実施に当たっての工夫】

(1) 事前の取組

① P T A地域部の協力

地域ごとにより安全でより効果的な活動が行えるように、コースをP T A地域部員さんに決定していただいている。また、多くの方に参加していただくためにP T A連絡網による呼びかけとともに、自治会の掲示板などにポスターの掲示を行っていただいた。

② 生徒の活動

クリーン作戦前に各分団に分かれて分団集会を行った。分団担当教師から主旨説明やコースを確認し、ゴミ拾いの注意点などを確認した。3年生や2年生が初めて参加する1年生に声をかけるなど、和やかな雰囲気での集まりを進めることができ、タブレットを使用するグループ分けも行った。

③ I C T支援員さんの協力

生徒がタブレットを利用し、まとめやすいように、決まった様式をタブレットのデスクトップに保存していただいた。

(2) 事後の取組

① P T A地域部の協力

生徒が作成したポスターを印刷し、P T A地域委員さんをお願いして、地域の掲示板に掲示していただき、多くの方に中学生の活動や意見を知っていただいた。

② 生徒どうしの交流

校内に印刷したポスターを掲示し、生徒がお互いに活動の成果を確認し、また意見や考えを交流できるようにした。

4 【事業の成果】

環境に対する関心やボランティア活動の意義などを生徒と保護者がともに考え、活動する機会になった。

まとめのポスターを制作、掲示することで環境や地域へ思いや願いを明らかにすることができた。

5 【事業実施上の課題】

安全面での配慮が必要な交通量の多い場所では、学区青少年育成区民会議の方々の見守り体制があり、来年度も継続していただきたい点である。また分団再編によるコース変更も検討課題として、視野に置いておく必要がある。ポスターの様式の変更についても「掲示に適していない」、「意見の記入が少ない」という課題があり、さらに充実したものとなるように工夫していきたい。

1 【活動の趣旨】

- ・校区内の地域・大学・企業・行政そして博物館と連携し、持続可能な社会の実現のために自分たちができることを追求する。
- ・環境学習で学んだことを保護者、地域の人などに向けて発表し、伝える学習を通して、自分たちの学習の価値や課題を知り、コミュニケーション力や表現力を高める。

2 【特徴的な活動内容】

(1) 立命館大学の特別授業（1年生）

1年では、立命館大学で環境に関連した特別授業を受講し、今後の環境学習に対する興味関心を高めた。

(2) 5分野での学習（2年生）

2学年では、5つの分野に分かれ、テーマ別学習を行う。〈行政分野〉では、市のごみ減量推進課等と連携し、ごみの減量とリサイクルの推進を考えた。〈大学分野〉では、立命館大学と連携し、「大気汚染とおい」をテーマに調査した。〈企業分野〉では、パナソニック(株)アプライアンス社に協力いただき、工場排水、水環境を考えた。〈地域分野〉では、地域の自然を守る活動、環境家計簿に取り組んだ。〈琵琶湖分野〉では琵琶湖博物館環境学習センターとの連携で、「川の生き物から琵琶湖の生態系を考える」をテーマに学習した。魚の解剖では全員がはじめてで興奮気味だったが、「皆さんは今命を扱っています。」という指導員の一言で静まりかえり、誰もが真剣に向き合った。ぎっしり詰まった卵、切り取った心臓が動いている様子、胃の中から出てきたエビ・小魚そして釣り針、それらをじかに見たりさわったりしていろいろなことを感じた。琵琶湖の魚の生態とともに「命と生と死」を見つめる時間となった。

3 【実施に当たっての工夫】

- ・地域協働合校推進委員会等を通して、学校を支援してくださる関係諸団体の協力を仰いだ。
- ・生徒たちの取組の様子や学んだことを地域に発信したり、地域や社会で実践し貢献できるような場作りに努めた。

4 【事業の成果】

- ・校区内の教育資源を活かした環境学習が展開でき、学びの質が高まった。さらに自分で課題を設定し、発展的な学習ができた生徒もいた。
- ・学校での学びが地域で認められ、地域とのつながりを強く感じると共に、生徒の自信につながった。

5 【事業実施上の課題】

幅広い分野の環境リーダーにお世話になり学習計画を遂行できたが、今後は、さらに生徒の意欲に応えていくための準備が大きな課題である。また、継続的な取組をしていくために綿密な連携が必要になると考える。



▲機械工学科での実験



▲企業見学



▲魚の解剖



▲環境クリーンウォーキング

1 【活動の趣旨】

常盤市民センター・笠縫東市民センターで市民講座を開設しておられる方や地域で活動されている方に依頼して、普段学校では体験できないさまざまな体験活動を地域の方に教えて頂き、共に活動することで地域の方との交流を図り、地域の一員であるという自覚を持たせたいと考えている。また、地域の方には中学校に足を運んで積極的に参加していただき、開かれた学校作りをすすめている。

2 【特徴的な活動内容】

今年は、太極拳、和太鼓、スクエアダンス、ジャズダンス、ヨーガ、グラウンドゴルフ、囲碁、川柳、書道、ネイチャープリント、本箱作り、水墨画、フラワーアレンジメント、手芸、茶道、洋食作りの16種類の講座を開設した。講座の指導者として80名余りの地域の方々に来ていただき、全校生徒が学年やクラスの枠を超え、興味を持った講座を選択し約1時間半の活動を実施した。



3 【実施に当たっての工夫】

生徒に事前に希望調査を実施し、講座の人数調整を行った。昨年体験した講座を引き続き希望する生徒や、3年間毎年違った体験を求める生徒がいる。

各講座の代表者と担当教師が、内容や費用について、事前に打合せを行い、事前に生徒に連絡する。

当日、会議室に集まっていたいただいた講師の方を各講座代表の生徒が迎えに行き、各活動場所に案内した。また、体験活動終了時には生徒代表者が地域の方にお礼を述べた。



4 【事業の成果】

いずれの講座も、講師の方々の周到的準備と優しく適切な指導により、生徒たちは日頃体験することのない内容に戸惑いながらも、楽しみながら生き生きと活動することができた。講師の方々も年1回のこの講座を楽しみに参加されており、「中学生との交流は楽しい」「生徒さんの呑み込みの早さに驚かされた」「来年も楽しみにしています」「私自身非常によい勉強をさせていただきました」等のご感想をいただいた。



5 【事業実施上の課題】

本事業は全校生徒を一斉に各講座に振り分けた体験を実施しているため、場所の確保や天候に左右されるところがある。幸いにも、当日は天候に恵まれ、野外の活動（グラウンドゴルフ）も予定通り実施できたが、雨天時の対応が難しい。講座の数だけ対応する教員も必要となるが、本校の規模からは余裕がない状況である。

また、生徒の希望に偏りがあり、講座の人数の調整が難しい。講座内容については、講師の方と学校教員がより綿密に連携をとることを大切にしたい。

1 【活動の趣旨】

進路学習の一環として、校区等に居住および勤務する方から、勤労の意義や喜び、ご苦労などのお話を聞き、来年度の職場体験学習や卒業後の進路選択に資する。

2 【特徴的な活動内容】

- (1) 生徒が各自の興味・関心を持つ職業を選択し、実際に職業人から講話を聴く。
- (2) 講話を聴いた後、生徒が疑問に感じたことを質問する。
- (3) 講師へのお礼の言葉を述べ、感謝の気持ちを表す。
- (4) 講話を聴いての感想と礼状を書き送付する。

3 【実施に当たっての工夫】

学校担当者と講師との事前連絡と打合せを行い、講話内容の調整を図った。

【講話に来ていただいた講師の職業】

- ・警察官
- ・消防士
- ・写真館(カメラマン)
- ・旅行業者
- ・理容業
- ・医師
- ・幼稚園教員
- ・保育士



4 【事業の成果】

生徒たちは、各自が選択した職業人の話を興味深く聴き、積極的に質問することができた。

また、漠然としか考えていなかった将来の職業や働くことの意義についての話を聞き、新たな視点を得た生徒が多かった。

コミュニティ教室の実施にあたっては、PTA事業と協賛しているのでPTA本部役員に協力をいただき、幅広く地域の方から講師を推薦していただくことができた。また、当日の運営でも、PTA本部役員の方に接待や教室までの送迎、見送りなどをしていただいた。



5 【今後の課題】

生徒が興味・関心を持つ職業人に講師を依頼することが理想であるが、人材や時間の都合上、例年ほぼ同じ職種になっている。講座によっては希望人数が偏り、第1希望者が10名を下回る講座もあり、調整が難航した。

来年度に向けて、可能な限り生徒が興味・関心を持つ講座を設定したい。

